

2007年問題に向けて 次世代大学教育を考える

大阪経済大学経営情報学部

教授 家本 修

Sep 2, 2005

目次

- 2006年問題、2007年問題、2008年問題
- 教科情報の諸問題
- 教員構成の問題
- 大学全入問題と学力

- 次の教育、未来の教育

少子化による大学全入

- 上位20%が3倍維持、学生数の40%
- 中位50%が1.5倍維持、学生数の60%
- 下位30%は、事実上、0
- 過去、20%で5倍、4%(希望校)
- 学ぶ大学から、目的の変更を明確化
- 文化教室を昇格
- 新大学を設置
- ありえない、パートタイマー学生主体

総入学定員

- 大学の今年度の総入学定員は43万1037人
- 入学者は47万3714人
- 入学定員充足率が110%を割り込む
- 前年度比で0.6ポイント減
- 短大、入学定員充足率は、今年度は99.6%
- 定員割れの大学は、昨年度の155校から5校増える
- 定員割れの大学は全体の3割程度で高止まり
- 定員充足率については、最高だった大学が243%
- 最低の大学は14%
- 短大の定員割れは、昨年度の164校から6校減って158校
- 大学の志願者数は、前年度比1.7%減の301万5674人

学生の質の保証

- 基礎学力を強化する新カリキュラムを来年度から導入
- 新しい学習指導要領「ゆとり教育世代」の高校生が来春入学
- 高校の補習のようなイメージではない
- あくまで高い教養を身につけた品格ある人材を育成
- 改革プラン「世界の『知』の頂点」を目指す
- 教育や研究、国際的活動など七つの分野で目標
- 教養教育強化策の一つとして「基礎学力の向上」
- 必修の基礎科目の単位数を増やし、幅広い教養を
- 成績評価や卒業認定を一層厳格化

学生の基礎学力が不足

- 私立大学・短大の60%強、学生の基礎学力が不足と認識
- 6年前の調査結果に比べて20ポイント以上増加
- 学生の学力が急激に低下
- 授業で直面する問題点
- 「学生の基礎学力がない」という選択肢を選んだ教員
- 4年制大学で60.1%、短大で66.0%
- 1998年度の調査より大学教員が24.8ポイント、短大教員が22.1ポイント増加。
- 理学系では大学教員の74.8%、短大教員の72.5%
- 工学系では大学教員の69.3%、短大教員の72.7%
- 「基礎学力がない」

情報教育の必修化生徒の入学

- 情報Aのみ(73%国公立)(82%私立)
- 情報Bのみ(7%国公立)(3%私立)
- 情報Cのみ(10%国公立)(5%私立)
- 2科目以上(10%国公立)(10%私立)

439校

- 1年生実施:79%

(日本情報教育開発協議会、2003年度)

大阪経済大学の現状

- 入学式で全入学生に質問紙調査
- レベルに応じて、3段階に分類
- 最大8コマの情報機器リテラシィ教育を実施
- 全入学生1700名にアウトソーシングで実施
- 効果
 - スキルの幅広さの底上げ
 - マナー、ローカルルールの徹底
 - 各科目でのPC活用の即時実施

入学時点段階評価

- 下位比、人間 > 経営 > 経済 > 情報
 - 20% > 18% > 16% > 12% (7%)
 - 超ビギナー自己評価集団
 - 同数以上は情報系資格取得集団
 - 5段階評価の1, 2レベルが問題
 - 入力200字/分以下、簡単な表計算、グラフ作成
 - プログラミング言語、情報系資格1つ以上

団塊の時代の退職

- 2006年、12000人
- 2007年、25000人
- 本当の問題
- 本来の科目担当に戻りたい、70%
- 過負担過酷、無理解、未整備(設備・制度)
- 教育系大学の情報リテラシの未熟
- 教員養成課程と制度の改革

生活能力低下

- ライフ・コンピテンシィの不足
- 社会モラルの崩壊
 1. 落書き・破損
 2. 犯罪
 3. 喫煙
 4. 各種マナーと気配り
 5. 社会的賢さの崩壊
 6. メンター問題の増加

創造性低下や実行能力低下

- 新規挑戦の減少(成功可能性)
- 後回し主義
- 時間切主義
- 人頼み主義
- 評価期待主義
- 逃げ隠れ主義
- 達成動機付けの不足か
- 無途な挑戦からの新たな発見の

学力の品質保証

- 学位の国際評価基準
- 資格の国際評価基準
- 外部評価機関による評価
 - 公平な評価委員会(民間、企業団体、市民)
 - グレードの認定(学年制から到達制へ)
 - 評価体系の整備
 - 再認定テスト制の整備(資格)
 - 筆記、評価、面接、クレジット、研究成果

高品質の教育

- 国際基準の達成
- 文系・理系の分類の褪せ
- 従来型大学教育の賞味期限切れ
- 講義、演習、実習は、ナレッジ・スキルだけ？
- ボトムアップとトップダウン教育の違い
- 短期養成実践型から再教育か？
- 教育の品質とは何か
- 達成基準は合理的か

指導要領の諸問題

- 時間数削減から得たもの
- 競争は人をだめにするか
- 完全平等主義は集団自殺時のみ成立
- 元に戻せば、教育は再建できる幻想
- パラダイムシフトに気がつかない教育者
- 教育は、持続性の嘘は保守主義者の温床か
- 20世紀型思想・理想主義の崩壊
- 指導要綱の改定は次に向けて始動

e-learningを再考する

- CAIの二の舞になる可能性
- 経済性を求めるだけか
- 従来型なら、人によるのがベターはなぜ？
- 教え方やコースデザインを今を求める
- 新たな教育方法があつてのe-learning
- 教育は科学であることを忘れたか
- コンピテンシィは育成できるのか

分かるとは、分かる授業

- 理解と記憶の違い
- ダイナミクス・インテリジェンスの育成
- 分からせる技術
 - Analogy: 事例で見せる
 - Structure: 構造(全体像)から
 - Network: 意味のつながりから
 - Procedure: 手順から入る
 - Paraphrase: 言い換える
- レベルに合わせる

授業の組み立て方法

- シラバスの深みを検討する
- 年間指導案・シナリオを確定する
- 指導方法を検討する
- 指導細案をつくる
- 教材を作成する
- 要点集を作成する

シナリオから、教案作成へ

- どのように教えるか検討したか
 - 目的からチャートを作れ
 - 何が理解の中心かを明確に
 - 手順を書き込め、資料内容を書き込め
 - 多い資料は良いとは限らない
 - 説明の関係を明示せよ
- 詳細教案を記載せよ
 - 教育目的、意図、方法、時間の流れ、
 - 留意事項

記憶が証明する教育法

- 10歳までの教育法
 - 反射式(ドリル)
 - 手続きを覚える
- 10歳を超えた教育法
 - エピソード記憶を中心に
 - 意味から事例へ
- 成長と記憶方法の違い

評価を評価する

- 形成評価を検討する
- 思考過程の可視化
 - レポート、ポートフォリオ、議論
 - 方略手順の図式化
- チェックリストの慎重な扱い
 - 飽きの来ない内容と手順
- 達成評価の標準化
- 標準化できない科目はない

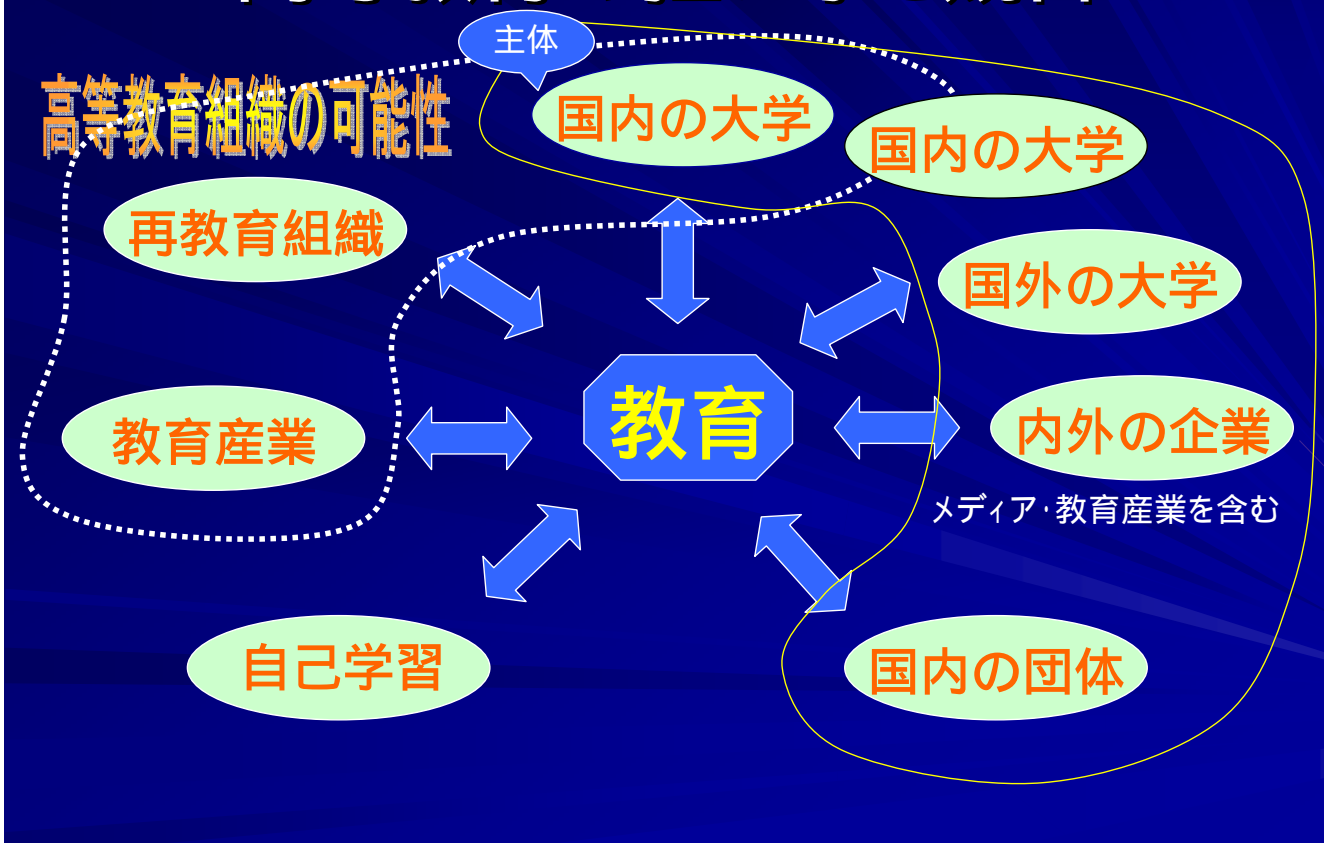
デジタル教材の功罪

- flash現象
 - わかった気になる
- interest現象
 - 興味関心があるきになる
- motivation現象
 - 外的動機付けがあるように見える
- anti-collaboration現象
 - 協調作業ができない

自分に溺れる授業の世界

- 教えるな！問いかけよ
- 視線の位置、視座の位置を学生中心に
- 表現の迎合が同化ではない
- 分からないのは、教え方の不味さ
- 関心を持たないのは、表現の不味さ
- 成績の不振は、教え方の智の不味さ

高等教育の担い手と競合



教育の質

■ 品質保証

- 到達レベルの保証
- 理解の保証
- 発展的可能性の保証

- 学習時間の保証
- 学びの動機付の保証

何を求めるか

- ダイナミックリテラシー
- 問題解決能力
- 創造性能力

- 社会性能力
- コミュニケーション能力
- リーダシップ能力
- コラボレイト能力

21世紀人材育成

■ 適性生活環境社会

- 科学技術創造者
- 科学技術専門家
- 科学技術理解者

生み出す
育成する
浸透させる

■ 多文化多価値社会

- 国際関係構築者
- 実施実現関係者
- 国際関係理解者

生み出す
育成する
浸透させる